神石高原町立三和中学校
令和４年８月２６日（金）
教務部

教務だより

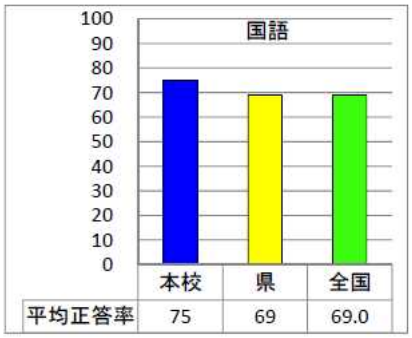
令和４年度
全国学力・学習状況調査の結果

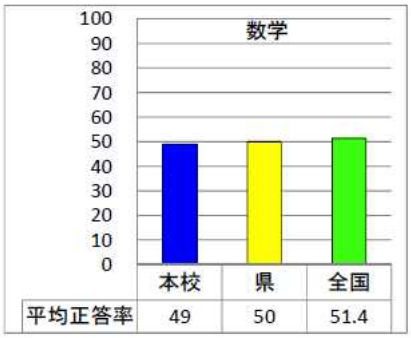
全国学力･学習状況調査は，小学校６年生と中学校３年生を対象に，

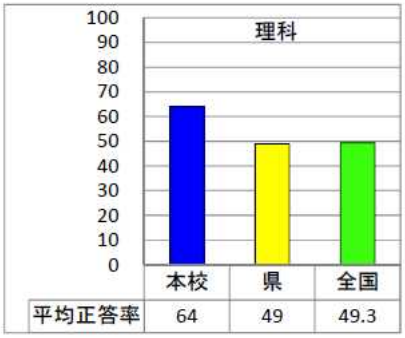
> 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ことを目的として，文部科学省が，学校の設置管理者である都道府県教育委員会，市町村教育委員会等の協力を得て実施するものです。

本年度は，４月19日（火）に調査を実施し，平均正答率（％）は次のような結果（本校並びに県平均は，小数第１位を四捨五入した数値の公表）でした。







> **国語の平均正答率は７５％（全国比＋６．０pt），数学の平均正答率は４９％（全国比－２．４pt）理科の平均正答率は６４％（全国比＋１４．７pt）という結果となっている。**
>
> **成果は，　理科がすべての領域において全国平均を大きく上回っていること。国語の「情報の扱い方に関する事項」において良好な結果（全国比＋２５．５pt）であり，資料から必要な情報を引用することができていると言える。**
>
> **課題は，数学の領域「Ａ　数と式」の素因数分解を取り扱う問題に関して，本校平均２０％(全国比－３２．２pt）であり，素因数分解は平方根でも用いられる考え方であるため，重点的に指導しておきたい。**

全国学力･学習状況調査の問題は，学習内容に係る知識･技能を活用する力を問う問題です。近年，公立高校入試の問題の傾向は以前までのものと大きく変わってきています。具体的には，知識の習得だけでは対応できず，知識を組み合わせて考え，自分の考えをまとめて文章等で表現する力（活用力）が求められる問題が多く出題されています。

２学期のスタートにあたって，「基礎･基本」を身につけた上で，それを活用して新たな価値を創造し，「未知の状況に対応できる」深い学びとなる授業づくりを，全教職員で確認して取り組んでいきます。